

第二十九章 講和會議ニ於ケル山東問題 (二)

四月二十二日ノ首相會議ニ於ケル山東問題

大正八年四月二十二日ノ首相會議ニ山東問題ハ正式ニ附議サレタ。此席ニハ「ウキルソン」大統領、「ロイド ジョージ」、「クレマンソー」兩首相及牧野、珍田兩全權(佐分利、木村兩書記官帶同)丈々、伊國全權ハ「フキユーメ」問題ノ紛糾カラ四月二十日午後以來出席シテ居ラヌ。我全權ハ通知狀通り午前十一時半ニ「ウキルソン」邸ニ行ツタノダガ、其前十一時カラ既ニ三頭會議ハ開カレテ居テ「アルサス、ローレーヌ」問題、「ライン」西岸無兵備問題等ガ議セラレ、我全權ノ入場シタ時ニ英佛兩首相ハ日本支持ヲ約束スル大正六年ノ公文ヲ手ニシテ米大統領ト會議シテ居タトノ事ダ。牧野男ハ日本ノ要求理由ヲ左ノ如ク詳述シタ後、平和條約ニ挿入スベキ案文ヲ配布シタ。

去ル一月餘ハ日本ノ參戰事情並ニ本件要求ニ關聯セル地方ニ於ケル實情ニ鑑ミ、正當且公平ナリト認ムル日本ノ要求ヲ最高會議ニ提出シ、之レニ關シ説明ヲ試ムル處アリタリ、余ハ今回ノ機會ヲ利用シ膠州灣租借地並ニ山東ニ於ケル獨逸ノ權利ニ關スル我方ノ要求ヲ一層詳細ニ説明セントス。

日本政府ガ一九一四年八月十五日獨逸ニ最後通牒ヲ送り、追テ日本ヨリ支那ニ還附ノ積リナル右地域ヲ無條件ニ日本ニ引渡サンコトヲ求メタルハ、尙ホ一般ノ記憶ニ存ズル處ナリ。

獨逸ハ一定期間内ニ回答ヲ與ヘズ、依テ日本ハ遂ニ武力ニ訴フルノ已ムヲ得ザルニ至レリ、日本ハ此等ノ措置ヲ執ルニ當リ常ニ英國ト協議シ、協調ヲ保持シテ行動シタリ。

膠州ニ於ケル獨逸ノ根據地ハ一九一四年十一月七日略取セラレ、山東鐵道ト共ニ今日ニ至ル迄日本ノ占領スル處ナリ。

日本ハ戰爭結局ノ終熄ヲ見越シ、一九一五年一月支那ニ對シ膠州灣租借地還附並ニ山東省ニ關スル獨逸ノ他ノ權利處分ノ基礎ニ關シ、豫メ協定ヲ遂ゲ置カムガ爲メ支那ニ交渉スル所アリタリ、之レ畢竟獨逸ニ對シ最終平和會議ニ於テ日本ノ要求ニ應ズルコトヲ拒絕スルノ口實ヲ與ヘズ、且ツ獨逸ヲシテ今後更ニ勢力ヲ恢復シ極東平和ヲ侵迫スルガ如キコトナカラシメムガ爲メニ外ナラズ。

其後引續キ行ハレタル商議ノ結果、一九一五年五月二十五日山東省ニ關スル條約並ニ之レニ附屬ノ交換公文調印セラレタリ、本條約ニ於テ支那ハ山東省ニ關シ獨逸ガ支那ニ對シテ有セシ一切ノ權利利益及讓與ノ處分ニ關シ、日獨政府間ニ協定セラルベキ一切ノ事項ヲ認ムベキヲ承認シ、日本ハ交換公文ニ於テ獨逸ヨリ膠州灣自由處分權ヲ獲得シタル場合ニハ、左記條件ノ下ニ之レヲ支那ニ還附スベキコトヲ聲明シタリ。

一、膠州灣全部ヲ商港トシテ開放スルコト

二、日本政府ノ指定スベキ地域ニ日本居留地ヲ設クルコト

三、列國ノ希望トアラバ國際居留地ヲ設クルコト

四、右地域ノ還附ニ先テテ獨逸公共營造物及財産並ニ他ノ條件及手續ニ關シ、日支政府間ニ協定ヲ遂ゲル

コト

此等ハ總ベテ自明ノ條件ナルガ或點ニ關シ茲ニ一言スルモ敢テ無用ノ業ニ非ザルベシ、右條件第二ニ規定スル日本居留地設置ノ議ハ、支那多クノ重要諸港又ハ開市場ニ見ラルルガ如キ特別ノ組織及法權ノ下ニ、日本人並ニ他國民(支那人モ含ム)居住ノ爲メ特ニ區劃セラルベキ市區ノ一部分ノミニ關スルコトナリ、又條約第四ノ「他ノ條件及手續」ナル語ハ、租借地ヲ支那ニ還附スルニ際シ決定遵行セラルベキ些細ノ條件及手續ヲ指ス。

一九一七年ノ初葉日本ハ其同盟國ト共ニ支那ヲシテ獨逸トノ外交關係ヲ斷タシメ、出來得ベクンバ之ニ對シ宣戰セシムル爲メ德憲盡力スル所アリ、遂ニ支那ハ一九一七年三月十四日獨逸ト外交關係ヲ斷チ、同年八月十四日獨逸ニ對シ宣戰スルニ至レリ、右ハ前記條約ガ兩國間ニ締結セラレテ後二箇年ノコトナリ。

其後一九一八年九月二十四日即チ支那宣戰後一年以上又日支條約締結後三年以上ヲ經タルトキ、在東京支那公使ハ日本外務大臣ト幾多ノ公文ヲ交換セリ、右公文翻譯ハ既ニ最高會議ニ提出セラレタリ、右公文ハ特ニ日本民政ノ撤廢、膠濟鐵道ハ其所有者決定ノ上ハ日支合辦事業トシテ經營スルコト、並ニ鐵道ノ守備及警察事項ヲ規定シタリ。

支那公使ハ又膠濟鐵道ニ連絡スル二鐵道線(之レハ獨逸ノ豫定線ト事實上一致ス)ノ建設ニ關スル借款調達ノ件ニ關シ日本政府ノ援助ヲ求メタルニ付、日本政府ハ之レニ應ジ、其結果支那政府ト日本銀行家間ニ此等借款ニ關スル豫備契約締結セラレ、支那政府ハ契約ノ條項ニ從ヒ銀行家ヨリ既ニ二千萬圓ノ前渡ヲ受ケタ

リ。余ハ出來得ル限り明瞭ニ事態ノ説明ヲ爲サムガ爲メ、前項ノ事實ヲ述ベタル次第ナルガ、之レニ依ルニ

第一、日本ガ或條件ノ下ニ膠州灣ヲ支那ニ還附スルコトヲ約セルコト、右條件ハ何レモ日本ガ山東省ヨリ獨逸ヲ驅逐スル爲メ盡シタル功績ニ鑑ミ、何等不正或ハ不公平ト認メラルルモノナキコト

第二、支那ノ對獨宣戰ハ右宣戰ヨリ約二年前ニ日支間ニ締結セル條約及附屬協定ノ效力ニ何等關係アルベキ筈ナク、且ツ右宣戰ハ何等前記條約及協定締結ニ關聯シタル形勢ヲ動カシ又之レヲ變更シ得ルモノニ非ザルコト

第三、支那宣戰一年以上ヲ經過シタル後締結セラレタル一九一八年九月ノ協定ハ、到底一九一五年五月ノ條約ノ存在及其效力認知ノ上ナラデハ締結セラレ得ベキモノニ非ズ、現ニ一九一五年ノ條約規定ノ或條項ハ後者規定ノ協定題目トナレルモノナリ、即チ一九一八年ノ協定ハ一九一五年條約ノ増補トシ其續約タラシメムトノ積ニテ締結セラレ、實際前者ハ後者ノ増補續約タル次第ナリ、且ツ支那ハ現ニ上記協定條項ニ從ヒ二千萬圓ノ前渡金ヲ受ケ居レルコトハ、特ニ留意スベキ點ナリ。

余ハ更ニ日支間ニ還附實行ニ關シ篤ト劃定セル方針ノアルコトヲ附言セントス、右方針以外ノ方策ハ協定濟ナル確定濟ナル確定的ナル協約ニ反スルモノナリ。日本ノ要求ハ一九一五年ノ條約及一九一八年ノ協定ノ條項ヲ實行シテ、租借地及山東省ニ關スル獨逸ノ權利、特權及讓與ヲ獨逸ヨリ得ムトスルニアリ。

支那宣戰ノ結果土地租借ニ關スル條約モ消滅スト主張スル者アル所、斯ル主張ハ國際法上確立セル規則ニ依リ認容セラレタルモノト看做スコトヲ得ズ、租借地内ニ於テ獨逸主權ノ行使ヲ許シ居ル租借條約ノ性質

ニ鑑ミ、膠州灣ノ租借ハ九十九年ト云フ時ノ制限アルコトヲ除ケバ、純然タル割譲ト認メ得ベシ、而シテ宣戰ハ土地割譲條約或ハ其他ノ領土上ノ協定ヲ廢止スルモノナラザルコトハ一般ニ認ムル所ナリ。

余ハ日本ノ拂ヒシ犠牲及從來ノ功績並ニ現在占領ノ事實ニ基キ、國民ノ名譽ニ關聯セル日本ノ要求ニ對シテハ、充分ナル満足ヲ與ヘラルコトト確信ス。

余ハ茲ニ對獨條約中ニ入レラルベキ條項草案ヲ提出ス。

山東省ニ關スル特別條件

第一條 「ヴェルサイユ」條約第百五十六條ト殆ンド同様ナルニ付譯出セズ」

第二條 (同上條約第百五十七條ニ該當)

牧野全權ノ前記説明後各員間ニ意見ノ交換ガアツタ、之レヲ詳シク述ベテモ徒ラニ紙數ヲ加ヘルノミデ、既ニ書イタ我主張ヤ米國大統領ノ意見等ト重複スルコトガ多イカラ、必要ト認メタ事丈ケヲ簡單ニ記載スルコトニスル。

「ウキルソン」大統領ハ海底電線モ亦獨支間條約ニ依ル「コンセツション」ナノカト質問シタカラ、牧野男ヨリ然リト答ヘタラ「ウ」大統領ハ前日牧野、珍田兩全權ト談話ノ次第ヲ「クレマンソー」及「ロイド、ジョージ」兩首相ニ内報シタコトヲ告ゲタ。「ロイド、ジョージ」首相口ヲ開キ、山東問題ニ付テハ英國政府ハ日本ヲ支持スル公約ガアルトテ、大正六年二月「グリーン」大使カラ本野外務大臣ニ送ツタ公信寫ヲ示シ佛伊兩國政府モ亦同様ノ公約ヲシタト記憶スト附ケ加ヘタ後我全權ニ向ヒ、獨逸海外領土ヲ一括シ獨逸ヲシ

テ先ヅ之レヲ拋棄サセ、終局ノ處分ハ聯合國ノ將來ノ協議ニ讓ルコトハ、曩ニ五國會議デ決定シタ方針ダガ此一般規定ヲ膠州灣問題ニ準用シテモ格別妨ゲガ無イ様ニ思ハレルガ、之レニ反シ若シ本件ノ爲メニ特別規定ヲ設ケルコトニスルト、濠洲ヤ南阿等カラ又其要求ニ付特別規定ヲ設ケンコトヲ提議スベク、之レヲ拒絕スル譯ニ行カナクナルカラ、日本側デモ考ヘテ吳レヌカト申出タ。

之レニ對シ珍田全權ハ右考案ヲ解剖スレバ第一、本件ニ委任管理制ヲ適用スルコト、第二、本件ノ解決ヲ平和條約以後ニ延期スルコトノ二段トナル所、其前段ニ關シテハ南洋諸島ヲ委任統治ニ屬セシメタル膠州灣租借地問題トカ全然其趣旨ヲ異ニスルモノナルコトハ、前日「ウキルソン」大統領ニ説明シタ通りデアツテ兩問題ヲ同一ノ基礎デ論ズルコトハ出來ヌ。ト指摘シタラ「ロイド、ジョージ」首相ハ中言シテ同意ヲ表シ「ウキルソン」大統領及「クレマンソー」首相モ首肯シタ。珍田全權ハ更ニ語ヲ繼ギ委任制ノ適用ガ日支條約上ノ義務ノ履行ヲ不可能ナラシムベキ事由ヲ説明シ、其後段ニ關シテハ、本件ノ如キハ問題ノ性質上其歸着點極メテ明白單純デアツテ特別調査ノ必要ガナイ事情ニ鑑ミ、毫モ遷延ノ理由ヲ見出スコトガ出來ヌノミナラズ、本件ノ満足ナ解決ヲ合マヌ平和條約ニ對シテハ、日本全權ハ其有スル訓令ニ鑑ミルモ調印スルコトガ出來スト明言シ「ロイド、ジョージ」首相ノ考案ヲ峻拒スルノ止ムナキ理由ヲ陳說シタ。

「ウキルソン」大統領ハ語氣態度共ニ前日ニ比ベテ一層温和和衷ノ色ヲ示シ、本問題ニ對シテハ英佛兩首相ハ政府既定ノ方針ニ從ヒ其執ルベキ態度ガ定マシテ居ルノニ反シ、自分ハ其間ニ介在シ、而カモ元首トシテ何事モ獨裁スルコトノ出來ル不幸ナ地位ニ在ルカラ、本問題ノ解決ニ對シ痛切ニ責任ノ重荷ヲ感ズト前提シ

タ後平和ノ確保、支那國民ノ疑懼不安、鐵道問題等ニ關シテ、大體前日會議ノ趣旨ヲ敷衍シ諄々ト其理想ヲ力説シ、日本ニ訴ヘテ何トカ支那國民ノ危懼ヲ氷解スルノ途ヲ求メント試ミタ。

牧野全權ハ一般對支政策ニ關シ大統領ノ力説シタ列國親睦不易ノ理想ニ對シテ誠意賛成ノ趣旨ヲ縷述シ、列國ノ對支外交政策ノ沿革ニ溯リテ其一種特殊ナル趨勢ト成シタ責任ハ歐米先進國ニアルコトヲ暗ニ仄カシ、更ニ進ンデ前日ノ會議ヲ敷衍シ、内田外相ノ帝國議會ニ於ケル演説ヲ引用シテ日本ノ對支政策ノ近時ノ傾向ガ益々和平協同的ナルコトニ言及シ、現政府ハ場合ニ依リテハ領事裁判權及勢力範圍ノ撤廢、列國守備軍ノ撤退、團匪事件賠償金ノ免除ノ四大政策ニ付テモ、支那ノ爲メ有利ナル解決ニ達スル様列國ト共ニ協議スルヲ辭セヌ旨ヲ宣明スルノ訓令迄受取ツテ居ルノダガ、不幸ニシテ支那全權ガ最近日本ニ對シテ和衷協同ノ精神ヲ棄テ、却テ反對ノ態度ニ出ヅル結果、之レヲ援助スルニ由ナキ事情ヲ述ベ、支那ニ對スル我根本政策ヲ披歴シタ。

「ウキルソン」大統領ハ此説明デ深ク印象付ケラレタ如キ態度ヲ示シ、日本全權ノ口カラ公然之レヲ聽キ得タコトニ満足ノ意ヲ表シタ後、鐵道、鑛山等ニ關シテ質問シ、我全權之レニ應答シタガ、大統領ハ話頭ヲ轉ジ支那全權ヲモ招キテ更ニ本件ニ付討議スベキヤ、或ハ支那ノミヲ招キ其陳述ヲ聽クベキヤ、日本全權ノ意嚮如何ト質問シタカカラ、牧野男ハ自分等ハ本問題ニ付支那全權ト議論スルノ必要ヲ認メヌ、其陳述ヲ聽クノハ毫モ妨ケナイガ、日本全權ハ本會議ノ一員タル資格ニ於テ列席ノ權利ヲ有スト信ズ。但シ支那ノ主張ノ如ク日支條約ノ效力又ハ可否ニ關シ本會議ノ判決ヲ求メ、換言スレバ本會議ヲ裁判所ト爲サムトスルガ如キ

ハ事態上自分等ノ斷ジテ容認セザル所ダト答ヘタラ、英佛首相ハ單ニ協議スルノミデ裁判等ヲスルノデナイノハ勿論ダト辯ジ、大統領ハ特ニ調停的口調デ、日本全權列席ノ權利ハ別問題トシテ、支那委員ハ日本全權ノ手前ヲ憚リ腹藏ナキ陳述ヲスルコトガ出來ヌ事情ガアルカモ知レヌカラ、支那委員丈ケヲ招致スル譯ニハ行クマイカト相談シタノデ、我方ハ支那全權ニ右様ノ感情ガアルナラ列席ヲ避ケテモ差支ナイト答ヘ、之レデ四月二十二日午前ノ首相會議ニ於ケル山東問題ノ討究ハ終ツタ。

同日午後首相會議(三頭會議)ハ支那委員ヲ招テ其陳述ヲ聽タ、彼等ガ何ヲ云フタカハ從來ノ言動デ充分判斷ガ出來ルカラ、茲ニ之レヲ記載スルノ蛇足ヲ敢テセヌ。

「バルフォア」外相トノ懇談

四月二十六日牧野珍田兩全權ハ「バルフォア」外相ノ求メニ依リ同氏ト其旅館デ會見シタ、此會談ハ一時間半モ續イタガ、中途カラ英國外務省ノ極東部長「マツクレイ」氏モ參加シタ。「バ」外相ハ頗ル打解ケタ態度デ、山東問題ニ付テハ同僚モ甚ダ苦心シ、何トカ總テヲ満足サセ得ル様ナ方法ヲ見出シタイト思フテ研究シテ居ルト述ベタ。其語氣デ察スルト英米佛談合ノ結果我全權ト懇談シテ見タラ何等カ妥協ノ光明ガ得ラレルカモ知レヌトノ考ヘラシイノデ、牧野男ハ基礎ヲ日支條約ニ置テ是迄ノ主張ヲ繰返シ、本件ハ日本ガ既定ノ權利ト義務トヲ履行セントスルニ止マリ、少シノ疑義モ無イ事件デ、日本國民ハ條約通りノ解決ヲ確信ヲ以テ期待シテ居ル、ト述べ一步タリトモ讓歩ノ餘地ナキコトヲ強硬直截ニ言明シタラ、「バ」氏ハ此點ハ好ク了

解シタ、即チ日本ハ膠州租借權其他ノ獨逸ノ權利ヲ日支條約通リ日本ニ取得スル以外、例ヘバ支那ニ直接還附スルガ如キコトハ、日本國民ノ名譽ト威嚴ヲ損スル重大問題ダト云フニ歸着スルノダト思フ。首相會議ハ膠州租借地ヲモ獨逸ノ他ノ海外領土同様聯合國全體ニ包括移轉ノ意見ガ出タガ、自分ハ山東問題ハ南洋諸島トハ全然異リ、日支間ノ條約モ在リ處分ヲ別ニスベキダト思フテ此說ヲ述ベタラ反對モ受ケナカッタカラ、皆モ大體自分ノ意見ニ同感ナノダト了解スルガ、日本ガ支那ト協定シテ得タ權利中ニ獨逸ノ有シタ權利以上ノモノヲ含シテ居ル様ナコトハ無イカト尋ネタ、我全權ハ之レヲ否定スルト共ニ如何ナル權利ニ付テ疑問ガアルノカト反問シタラ、例ヘバ山東鐵道守備ノ如シトテ一九一八年日支取極中ニ在ル青島濟南日本軍集中ノ條項ヲ指摘シタカラ、之レハ我鐵道占領軍ヲ沿線カラ引揚ゲルコトヲ意味スルモノデ、軍隊ノ永久駐屯ヲ目標トスルノデハナイ、ト説明シタラ、然ラバ此條項ハ單ニ過渡的規定ト解シテ宜シイノカ、ト尋ネタノデ、我全權ハ正ニ其ノ通りダト斷言シタ。「バ」外相ハ實ハ是等ノ點ニ關シテ同僚モ十分了解シ得ズ不安ノ念ヲ抱イテ居タ、支那ノ恐レル點モ斯様ナ所ニアルノダトテ大ニ安心ノ狀ヲ示シ、「マツクレイ」氏サヘ疑問ガ氷解シタト告ゲタトノコトダ。

「バ」外相ハ租借地周圍五十軒地帯ノ權利モ亦日本ガ依然保有スル積リナノカト聞タ、斯クノ如キ質疑ノ出ルノヲ不可解ニ感ジタ我全權ハ、右地帯ヘ獨逸ガ租借地ヲ保有シ之レヲ軍事の根據地トシテ居タカラ必要ガ在ツタノダガ、日本ハ一部ノ專管居留地ヲ除ク外租借地ヲ支那ニ返シ、支那ノ主權ヲ回復サセルノダカラ、斯カル特別地帯ヲ引續キ保存スル必要ハ無イ、日本ハ獨逸ヲシテ山東ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄サセルガ、

自分デ其地位ヲ繼承スル考ハ無イノデ、換言スレバ山東ヲ支配セントスルガ如キ意圖ノ無イコトハ、日支條約取極ヲ見レバ一目瞭然ダト述ベ、詳細之レヲ説明シタ。「バ」外相ハ更ニ山東鐵道合辦ノ性質ニ付テ質問シ「マツクレイ」氏ハ順德濟南及高密徐州線ニ關スル日支取極借款條件ニ付質問シ、「バ」外相ハ右兩線ノ借款スラ獨逸ノ既得權以外ノモノト誤解シテ居ル模様ダツタノデ、獨支間ニハ右ニ關スル細カイ借款條件ノ協定ガアルコト等詳シク説明シ、此他專管居留地ノ範圍等ニ付二三質疑應答ノ後、「バ」外相ハ今日ノ會談ハ頗ル有益デアツタ。日本全權ノ口カラ親シク種々疑點ノ説明ヲ聞イテ大ニ得ル所ガアツタ、同僚モ實ハ十分諒解シテ居ラヌ點モアルカラ、自分カラ詳細説明スル積リダガ、要スルニ第一、日本ハ獨逸ノ一切ノ權利ヲ讓受ケルコトヲ飽迄主張スルコト、第二、日本ハ日支間ノ條約取極ハ一點モ變更ヲ許サヌコト、第三、日本ハ支那ノ主權ヲ尊重スルモノデ、租借地ヲ還附シ結局日本ノ收得スルモノハ、軍事的權利ニアラズシテ經濟的ノモノニ止マリ、主トシテ鐵道鑛山權而カモ既設ノ鐵道ニ付テハ純然タル合辦。未設ノモノニ付テハ借款權、其他專管居留地等ナリ、ト了解シテ差支ナイカト尋ネタカラ、我全權ハ其通りダト答ヘタ。

以上デ明カナ如ク日支條約及取極ノ條項ノ解釋ニ付英國側否寧ロ英米側デ多大ノ疑惑ヲ抱テ居リ、支那通ノ「マツクレイ」氏スラ誤解シテ居ル程ナノハ、支那側ガ故意ニ此等條項ヲ牽強附會シ、英米側ニ錯覺ヲ起サセタノニ依ルコト勿論デハアルガ、支那側ノ此行動ヲ唆喚獎勵シ、起ラズニシ得タ風波ヲ捲立タシタ主動者ガ、世界ノ和平ヲ強調スル元首ノ幕僚デアリ、元首其人モ亦其渦中ニ投ジテ、徒ラニ極東ノ靜寧ヲ破壞シ今日ニ至ルモ尙未ダ日支兩國ノ關係ガ之レニ累セラレテ居ルノハ、返ス返スモ遺憾千萬デアル。

「ランシング」國務卿トノ會談

今迄我方トノ觸接ニ極メテ冷淡ダツタ「ランシング」國務卿ハ、四月二十六日突然珍田全權ニ會見ヲ申込ンダノデ、(「ラ」氏著「講和會議」ニ依レバ大統領領ガ何トカ話ヲ纏メル爲メ我全權ト會談スル様「ラ」氏ニ要求シタ爲ダトノ事ダ)、同全權ハ即夜往訪シタラ「ウキリヤムス」氏ト共ニ應接シタ「ラ」國務卿ハ先づ膠州灣問題ニ關シ大統領ノ考慮ニ資セン爲メ淡白ニ双方ノ意見ヲ交換シタキ旨ヲ述ベ例ニ依リ露骨無遠慮ナ語調デ、左記要領ノ質問ヲ發シタ。

一、山東省ニ於ケル獨逸ノ勢力及權利ハ畢竟暴力ノ上ニ扶植シタモノダカラ、世界平和ノ基礎十四個條ノ根本義ニ照シ、之レヲ掃蕩シナケレバナラヌガ、日本ノ要求ハ山東省ニ於テ獨逸ガ持ツテ居タ一切ノ權利特權等ヲ舉ゲテ、之レガ讓渡ヲ受ケンツルニ歸着スルカラ、讓渡後ノ處分如何ニ依ツテハ、前掲ノ趣旨ニ悖ル様ナ結果トモ成リ得ル。

二、日支條約中ニ膠州灣還附ノ規定ハ在ルガ、平和條約ニ之レヲ明記セヌ以上、聯合國ノ關スル限り、右還附ニ關シ何等率由スベキ根據ガ無イ。

三、日支條約ニ率由スルト假定シテモ、還附實行ノ期限方法ニ付テハ條約中何等確的ノ規定ガ無イカラ、實行ガ遷延シテ多年ニ亘ルコトモアリ得ルシ、又新タニ過重ノ代償ヲ要求シ得ル餘地モアルノデ、是等ハ自然不安ノ念ヲ懷カセル。

右ニ對シ珍田全權ハ山東省ニ扶植サレタ獨逸勢力ノ驅逐ハ、日本參戰ノ一主眼デアルカラ、獨逸ヲシテ一切ノ權利ヲ舉ゲテ拋棄セシムル要求ハ、固ヨリ當然ノ主張ダト思フ、若シ之レ以下ニ下ル要求ヲスレバ獨逸ノ勢力ノ一部ハ存續スルコトニ成ル、日本ガ獨逸ノ權利ヲ讓リ受ケルコトト、日本自ラ之レヲ繼承行使スルコトハ全然別個ノ問題デ、讓渡サレタ權利ノ主要部分ヲ支那ニ還附スルコトハ、日支條約及取極デ既ニ規定サレテ居リ、又假令條約ニ明記シテ無クトモ租借地外五十浬ノ中立地帯ハ租借地ト共ニ一併還附サレルノハ言フ迄モ無イ、鐵道ニ對スル權利ハ日本ガ獨逸ノヲ其儘繼承スルノガ當然ナノニ拘ラズ、支那ノ福祉ヲ重シジテ之レヲ合辨トスルニ取極メタ様ナ次第ダ。元來平和條約ハ單純ニ對獨關係ヲ規定スベキモノデ、其中ニ還附ノ公約ヲ載スルガ如キハ、當ニ不合理デアル許リデナク、獨逸ニ對シテ日本ハ義務ヲ負フコトト成ルカラ斯クノ如キ考案ニハ到底同意スルコトガ出來ヌ。還附實行ノ期限ハ附帶條件ノ履行ト共ニ多少ノ消長ガ在ルカラ、豫メ確定スルコトハ出來ヌガ、必要以上ニ遲延サルベキモノデハ無イシ、附帶條件ニ付テハ既存條約ニ明確ニ書テ在ル。右條約中ニ「其他ノ條件」ト云フノハ官有物ノ授受ニ伴フ必要ノ手續ニ過ギヌ、右様ノ事實ナルニ拘ラズ實行遲延トカ新要求ノ追加等ヲ云爲スルハ、猜疑ノ極デ、結局日本ノ信用ニ對スル不信ノ詮議タルヲ免レヌ。終リニ日支條約ノ可否又ハ效力有無ノ論議ガアルガ、日本政府ハ斷ジテ他國ノ容喙ヲ認諾スルコトハ出來ヌ、聯合各國ガ自主對等ノ國家トシテ此所ニ會合シタノハ專ラ敵國ニ對スル講和條件ヲ議定スルガ爲メデ、濫リニ友邦間ノ條約ヲ審判セントスルガ如キハ、講和會議ノ趣旨ニ背反スル企圖デアルト應酬シタ。

此最後ノ點ニ關シテハ當夜「ランシング」國務卿ハ何等言及シタ譯デハ無カッタノダガ、米國側デ支那ノ暴論ヲ支援シ、其氣焰ヲ煽ツテ居ルカラ、之レニ言及シタノデ更ニ珍田全權ハ支那委員ガ一意日本ノ譏誣排擠ニ腐心セル事實ヲ詳述シ、山東問題ガ我威嚴榮辱ニ關スル重大問題トナツタ事由ヲ說示シ、本件ノ滿足ナ解決ヲ含マヌ平和條約ニハ調印不可能ノ所以ヲ聲明シテ、米國側ノ反省ヲ促シタ。

第三十章 講和會議ニ於ケル山東問題 (三)

四月二十九日三十日ノ首相會議

四月二十九日午前十一時カラ開カレル首相會議デ更ニ山東問題ガ討究サレルコトニナツタカ、其前ニ懇談シタイト「ウキルソン」大統領カラ申込ミガアツタノデ、牧野珍田兩全權ハ十時ニ往訪シタラ、大統領ハ日本ハ州灣租借地ニ於ケル獨逸ノ租借權其他ヲ支那ニ還附シ、只居留地ヲ留保スルノミデ、又租借地以外デハ經濟の特權ヲ取得スル丈ケダト了解シテ良イノカト聞タカラ、大體其通りダト答ヘタラ、大統領ハ然ラバ青島及濟南ニ日本軍ヲ置クコト及支那警察ニ日本ノ顧問ヲ置クコトヲ強制スル權ヲ取得シタノハドウナルノダト反問シタノデ、我全權カラ日本軍ノ駐屯ハ戰時占領ニ基ク權利デアアル。從ツテ講和ガ成立シ租借地ヲ還附スル上ハ右軍隊ガ撤退スルノハ其性質上當然ノコトダト答ヘタ。大統領ハ警察問題ハ租借地以外ニ亘ツテ居リ獨逸ガ持つテ居ナカッタ權利デ、又經濟的ノ權利デモ無イカラ支那ノ主權ニ影響スルト、述ベテ強硬ニ反對シ所謂二十一個條要求ニ基ク日支條約ハ之レヲ認メザル趣旨サエ仄カシタカラ、我全權ハ警察教官ノ問題ハ何等支那ノ主權ヲ害スルモノデハ無イ。單ニ支那警察訓練補助ニ止マリ、鐵道ノ安全ヲ保護スル爲メニハ諸般ノ關係上教官又ハ顧問ヲ、支那鐵道警察ニ入レテ置ク必要ノアルコトヲ説明シタ、大統領ハ鐵道ニ付テハ日支ノ共同管理ト成ルベキ筈ノ處、警察ニ付テハ日本ニ一種ノ管理權ヲ與ヘルモノデ、是レハ支那ノ主權侵